

令和5年度 第8回

日南市教育委員会

会議録

令和5年10月25日(水) 午後3時から
日南市役所別館2階会議室6

- 1 会議の名称 令和５年度教育委員会 第８回会議（定例）
- 2 会議日時 令和５年 10 月 25 日（水）
午後３時５分から午後４時 20 分まで
- 3 出欠確認
 - （１）出席委員 都甲政文、黒木由香、別府信一、八木真紀子、佐藤泰信
 - （２）事務局 学校教育課学校教育担当監
学校教育課課長
学校教育課管理係長
学校教育課管理係主査
- 4 場所 日南市役所別館 2 階会議室 6
- 5 傍聴者 0 名
- 6 開会
【都甲教育長】
「それでは、令和５年度第８回日南市教育委員会定例会を始めさせていただきます。」
- 7 出席者及び傍聴者確認

【都甲教育長】
「出席者の確認をいたします。教育委員 5 名全員出席でございます。事務局の出席者の確認をお願いします。」

【長本課長】
「事務局は、教育部長が出張のため欠席となっております。」
- 8 活動報告
 - （１）教育長活動報告
【都甲教育長】
 - ・ 9 月 27 日、吾田小合唱部の保護者会の会長さんと副会長さんが市長のところに来られました。11 月 12 日に、全日本合唱コンクールに出場となってまして、九州大会の結果と全国に出ますという報告を市長にされました。精一杯力を発揮して欲しいんですけど、今回宮崎県から 6 校出るようで、なかなか宮崎県はすごいなと思ってですね。

・ 9月29日、宮崎大学の椋木先生がですね来られたんですけど、この前の評価をしていただきましてそのお礼を伝えてですね、改めて椋木先生が気が付かれた点についてアドバイスをもらいました。

・ それから9月30日を皮切りに、10月1日そして15日とですね、市内の小中学校の体育大会運動会がありました。皆さんにも行っていただきましたので、また後でご感想をお聞かせください。

・ 10月4日、校長会でした。体育大会の終わったところにはお礼と、それからこの前お話ししたセクハラとかパワハラのアンケートをやったんですけど、その結果を受けてやっぱり学校の先生達もしっかり相手意識を持って、それを心がけて普段接して欲しいと。先生同士ですね、そういうのがちょっと欠けている面もあったものですから、アンケートの結果からそれをお伝えし、そして新聞に出ましたフッ化物の使用薬品の期限切れの案件からですね、危機管理をしっかりして欲しいということを伝えました。

・ 10月8日、市民スポーツ大会の総合開会式だったんですけど、これ久しぶりに総合開会式があり全体でやりました。多くの参加者があってですね、それぞれの競技で盛り上がったと聞いております。

・ 10月10日、これ食の指導の学校訪問。食の指導のですね、授業を油津小学校の宮田栄養教諭がやられるってことで、油津中学校に行きました。2年生全員が対象だったんですけど、今栄養補充のサプリがあるじゃないですか。サプリについての授業だったんですよね。そのサプリの良いところ悪いところとかそういうのを示されて、身近な問題としておいて、授業に真剣に取り組んでおりました。

・ 10月14日、これはこっちには関係ないんですけど、国道220号線の牛ノ峠バイパス、わかりますか、三股から酒谷に抜けるバイパスですけど、あれが昭和40年代に作ると決まったんですけど、ここ20年ぐらい工事止まっているんですよ。ていうのは、高速に力を入れたりとか、都城志布志道路に力を入れたりしたものですから、これが20何年止まっているんですけど、これを早期にやってもらおうということで、都城、日南、三股の2市1町から大体1,000名ぐらい集まってですね決起集会が行われました。

・ 10月17日、これ学校訪問、鵜戸小中学校がオープンスクールをやるってことで見に行きました。学年によってはですね、たくさんの保護者の方が見えていたんですけど、1日だけだったらいいですね。となると、なかなか忙しい方もいらっしゃるのので、例えばオープンスクール週間とかですね、そういうふうにすると、地域の方も参加しやすいんじゃないかというふうに校長と話したところでした。

・ 10月18日から20日まで、うちの担当監と九州都市教育長協議会定期総会研究大会が沖縄の名護市でありました。名護という北部のですね、ヤンバルというところですね。文科省のGIGAスクールに関する講話や、それから私が出たのは、教育行財政で志布志とか出水市の取り組みについて聞きました。あと、沖縄のヤンバル地域の自然についての講話とかがあって、最終日は、文化財視察とかあって、泡盛の醸造所が残ってるんですよ。戦火を逃れて、壁なんかに機関砲の穴があったりしてですね、そういうところ見に行ったりと

かしました。あとはリニューアルした名護博物館の視察とか、とても充実した研修会に参加させてもらいました。

・10月21日、これ飢肥城下まつりの当日ですね、那覇市と犬山市との姉妹都市交流会ってことで、両市の市長さん、副市長さん、議員さんがお見えになっておりました。繋がりが深められたのかなということでした。

・10月24日、昨日別府委員、佐藤委員にも行っていただきまして細田中学校の単独訪問。2学期がスタートしました。また後程お二人からも感想をお願いします。

(2) 委員活動報告

【別府委員】

まず10月1日に北郷小中学校の運動会を拝見させていただきました。今年の赤団白団の分け方っていうのが、9年生は白団、8年生は赤団という形で、初めての取り組みだったということで、8年生と9年生なんで、力の差は出たように感じられるんですけど、どちらも団結力のある頑張りを見せていただきました。私自身小中一貫校の運動会が初めてだったので、大変楽しませていただきました。

あと10月15日、吾田東小学校の運動会を拝見させていただきました。吾田東小学校はうちの子ども達もお世話になった学校で、とてもですね懐かしい思いで見させていただいたんですけど、全校生徒参加型の半日開催、こちらも違和感なく段々と定着しているように感じたところです。

あと、10月23日、日南市共同募金委員会に参加しました。こちらはですね、助成事業要望の審査委員長、副委員長の選任が行われるんですが、郷谷元委員の後任という形で私が副委員長に選任されました。この後引き続き審査委員会が行われたんですけど、こちらの方は応募のあった14団体25事業の助成金を決めていくっていう審査を行うんですが、1件1件話し合って審査をしたところでございます。

昨日ですね細田中学校の単独訪問に行ってきました。やっぱり印象深かったのが授業風景。子ども達が自主的に授業を受けているという雰囲気にとっても感動しました。で、新しい1年生が一人でも多く入学してもらえる活動ということで、先生が子ども達と一緒に力を合わせて取り組まれている内容も素晴らしいなと感じたところです。

本日ですね、先程文化財視察に行かせていただきました。とても勉強になってまたこういった機会をたくさん作って欲しいなと思ったところです。ありがとうございます。

【都甲教育長】

北郷小中学校は学年を分けてなかったんですね。

【別府委員】

普通だったら9年生を二つだけど、生徒からの要望とかで、最後だから一緒にさせて欲しいみたいな話があったとかで、白団9年生、赤団8年生みたいな形でやったんですよ。

見事に点数ば一っと。だから、ちょっと今度学校訪問があるので、その後のその保護者の意見とか、やっぱりどうだろう、これだけ点数が離れたらという意見も出てくるかなと思ったりとか、でも思い出のためにはそっちの方がいいのかなと。そのあとの感想というのをちょっとまた今度。

【黒木委員】

8年生、9年生以下は。

【別府委員】

他は変わらない。上学年だけ重視して。

【都甲教育長】

9年生がいる方が圧勝だったでしょうね。

【別府委員】

もう圧勝だったですね。

まあそれでもよかったし、初めての経験だったんで、ちょっとそこら辺もそうですね。

【佐藤委員】

私も運動会をです北郷と、それから東郷もちょっと卒園生を見たいなと、こっそり短い時間だったんですけど見させていただいて、やっぱり何年ぶり4年ぶりですかね、保護者の方がフルにね、やっぱ子どもがいて、周りがそこを一生懸命応援する見守るっていう社会というかいいなあと。やっぱ子ども達がいる世の中っていいなというのはもうひしひしと、あと、卒園生が頑張ってるのでうれしかったんですけど。

あと、吾田小を行ったら、ちょっと気になったのがですね、運動会始まる前にちょっと卒園児に会いたいので裏の方をウロウロしてたんですよ。ちょっとロープ乗り越えたりして。そしたらお一人か二人なんですけど、結構激しく気合いを入れてらっしゃる方がいて、やっぱり、今ですよ、主体的な教育活動って幼稚園も小学校も中学校もこう言われている中で、大きな行事じゃないですか運動会っていうのは。だから授業の中では子ども達の意見とかを大事にされてるんだろうなと思うんですけど、行事の中でもですね、そこに北郷なんかちょっと素晴らしいですよ、そのクラス分けをしたっていうので、子ども達の考えを取り入れて。そういうのがたくさん見れると嬉しんですけど、ちょっと気合い入れられる感じは、この時間に気合い入れて、もうね、本当に運動会団結しないと駄目でしょうって。でもその団結するっていうのは、言われてするものじゃないと思うんですよ。本当この汐見先生もよく言われてるんですけど、みんなで力を合わせると楽しいとか、なんか充実するとかいいうことを、自分達で判断して一緒にやろうとか、合わせようとかというのが重要だと思うんですよ。だから幼稚園とかバラバラですよ。でも大体それ

で遊べるのもいいなと思ってきて、小学校に行ってくれればと思うんですけど、それを団結賞取れないよとか、教員がですよ、何乱してるの、あなた達のせいで負けたらどうするのかというのを、開会式前にいわれちゃうとですね。これ普段の練習どうしてるのかなってのがちょっと心配なので、だからそこは運動会の昔のイメージってみんなバシッとそろってですよ、一糸乱れぬ応援とかですよ、そういうのが良しとされてきましたけど、やっぱそこはちょっと変えていかないといけないんじゃないかなって。吾田小の団結賞というのもありましたけど、その観点も説明があったんですよ。練習の時から5分前集合とか無言行動とか、みんなで力を合わせてるとかいうことだったんですよ。そこでみんなで意見を出して、こうしたい、ああしたらいいとかいう工夫とかなかったんですよ、観点に。だからそこはちょっと残念だなと。子ども達もどんどん違う意見が多様な意見が出てくるような、それが一つの形としてまとまった姿っていうのを見たいなという、ちょっとそこは思ったとこでした。

あとは、学校訪問で昨日細田中行かせていただいたんですけど、ちょっと授業を楽しみにしてんですがちょっと時間が短いんですよね。だからどんなふうにそのICTとかですよ、そういう少人数の良さとかを活かした授業をして学力向上を目指してらっしゃるのかなとちょっと分かりにくかったんで、今日のこの後の研修を楽しみにしています。

【八木委員】

私はちょっと活動少ないんですけど、運動会、吾田中学校の方に10月1日に行かせていただきました。久しぶりの中学校の運動会だったので、やっぱり見ててワクワクしましたし、子ども達一生懸命頑張ってる姿に感動しました。私、いつ行ってもいいですよって何時でもいいですよって言われてたんですけど、私行ったらもう全員あの議員さんとか副市長とか、私一番遅かったのちょっと反省しました。今度はやっぱり書いてある時間にちゃんと行きたいなというふうには思いました。

【黒木委員】

私の方は10月1日細田中学校をちょっと見に行かせていただいて、今年の19人っていう全校生徒19人という少人数の体育祭どうするのかと思って見てたら、これがもう見事に盛り上がって、もうここは本当に運動が得意な子も、苦手な子も、表に出るのが得意とか好きな子もそうじゃない子も、みんな一人一人が主役ばりに踊るし走るから、ものすごいこうエネルギーが伝わってきてすごい感動する体育祭だったなっていうふうに思いました。もう先生も一緒に巻き込んで、地域の人と一緒に巻き込んで、みんなで綱引きをしたり、なんか恐竜の着ぐるみみたいなのが途中で現れて、もう玉入れを一緒にやってとか、見てる方も楽しかったし、すごい人数的には多分少ないんだろうけど、見てる人達も楽しかったなと思って結局最後まで居て、うちの息子も卒業生だったんですけど去年13人卒業して11人見に来ていました。みんなで応援して一緒に綱引き出るとか、そういう細田中のよさっていうのというのが、本当にいいなこってって思って、なんかいい

気持ちになって感動して帰った一日でした。

あとは、昨日 24 日に、日南高校の未来戦略課の研究発表会に審査員でちょっと行かせていただいて、ちょっと高校っていう場所を訪問するのが教育委員になってなかったの、初めてちょっと小学校中学校と全く違う感じで、審査っていうのをどんなふうにやったらいいのかっていうのがまずわからなかったところからスタートしたんですけど。

昨日のは、普通科と探求科が今までは合同でされてたことを普通科でやって、来週探求科でやるってことで、普通科のその研究の勝ち抜き 5 組の決勝を見てきたんですけど、甲乙つけ難いというか、こうなんだろう、テーマに対して日南市の抱える課題に対してその市の方が、今日南市がこんな問題抱えていますっていうのを 1 回説明に行かれて、その中から子ども達が題を決めてそれを研究していくっていうので、結果こんな問題解決がありますよっていうところをゴールにしてるんだけど、もうちょっと高校生だったら踏み込んでもいいのかなっていうところがあったので、何が足りなかったのかな、この子達に何が必要なのかなと思った時に、やっぱりその探求の学習という小学校からの積み重ねなのかなと思って、基礎がしっかりできてると高校でもうちょっと踏み込んだ内容を作れるというか、そして日本人ならではのかもしれないけどグループワークみたいなのを、もっと自分の意見を言えて、人の意見を聞いた中でじゃあそうだね、もっとこうしたらどうかなっていうそのディスカッションみたいなことが苦手なのかなって、表面的に正解かなっていうところを並べるというか、だからもっとそこに研究、探求心っていうのを育てる教育っていうのが必要なのかなって。多分、探求の学習っていうのまだ始まったばかりっていうか、だから今の高校生とかがまだそこに不慣れなのかなっていう気はするんですけど、そういうところ総合の学習のところとかもう少し踏み込んでいくと、基礎的な学力も上がるのかなっていう気がします。やっぱり、ピラミッド型になって学習を覚える自分が勉強できるようになるっていうのは、その人に物事を教えて自分に物事が入ってくるっていうところで、そういうみんなで勉強をしてわからないとこ友達で教え合ってる中で、自分がよりそれに対してきちんと理解が深められたり、友達の理解した方法だから子どもも理解できたりするところもあったりする、そのグループワークっていうところもすごく大事なのかなっていうことを考えながら、昨日は審査席に座ってたんですけど、ちょっと心もとない審査員で申し訳なかったけどすごく勉強になりました。

【都甲教育長】

そういう新鮮な気持ちがいいんですよ。本当後ろにね高校生が見ててね、手挙げて質問した時にみんな何聞いちゃって、この人何聞くんだろうかとかね。

【黒木委員】

中にはほら知ってる子もいるから、バーツと思いながらも大人と同じような感覚を持ってる子達に、その自分の意見っていうのをどんなふうにしてたらしいのかってね、一生懸命研究してきた子達に、どこまでこの質問をしてもいいのかっていうか、もうち

よっと認めてあげるような質問をしてあげたいなと思ってたので。

【都甲教育長】

特に普通科高校はですよ、今までは単語幾つ覚えるとか、数学の問題がなんぼ解けるとかいう探求とかは正直入試には関係ないような取り組みじゃないですか。言わせてもらえば。だから、先生達も何て言うか、試行錯誤もあるんじゃないかなって。

【黒木委員】

だと思います。その担当されてる先生で持って行き方が全然違ってるなと思って、それで昨日コーディネーターで見えてた方と話したら、えびのの飯野高校がそういう探求にもすごい力をいれてる先生がいらっちゃって、よそからも結構視察に来られることが多いらしいので、中学校の先生とか小学校の先生もそういうところに行って、ゴールが高校ではないんですけど、ここぐらいでこのぐらいのレベルがあるといいなって。中学校じゃここまで持って行けたらいいなっていう先生達のその答えというか、こうやっていきたいというね芽生えがあるとあとは面白いのかな。

【都甲教育長】

小学校も中学校もやってるんですよ、総合的な学習の時間ね。だから段々精度も上がって行って、深くなっていかなきゃいけないんですけど、そこがね、まだまだ問題ですね。

9 前回の議事録承認

第7回の議事録について了承

10 研修

「学力向上について」 上村指導主事説明

【八木委員】

何か、66 割る 2 って簡単だなと思ったけど、ちょっと感じたんですけど、こういう傾向ってのも去年、一昨年とかもずっとなんですか。

【上村主事】

今年度の学力ですか。日南市もですし、宮崎県もちょっと全国的に同じような傾向がずっと続いていて。

【八木委員】

あ、結果じゃなくて、出題される問題は結構もうこれがずっと何年か続いてって

うか、最近こういうふうな総合的な傾向になってるんですか。

【上村主事】

以前はさっき最初の方でお見せした記述の問題なんかも2問ぐらいだったんですけど、今年見たら4問に増えてて多分今後また増えていくんじゃないかと。

【八木委員】

子どもはこういう形に慣れてるんですかね。授業の中でもこういうパターンの問題が教科書とか出てきて解いたりしてるんですか。

【上村主事】

教科書的に、練習問題とかはもう本当にこんな感じの問題、練習問題がずらーっと一杯あって、とにかくドリル的に解くことが多いので、実際これを応用してこうしなさいっていう問題は慣れてる子は少ないと思います。

【都甲教育長】

ですから、基本っていうのはある程度押さえてたけど、活用っていうですよ、応用力がやっぱり宮崎県の子達はなかなか身に付かないってのはずっとあるんです。

【佐藤委員】

結構苦しいとこですよ。やっぱ基礎きちんとやらないとついてこない、これない子もたくさん出てしまうんで、それで応用も何もあったようなもんじゃないですね。だからそのICTですよ、うまく個別指導とか、やっぱり躓いているところをAIでこう問題をどんどん解かせてもらって、ある程度レベルを揃えたところでみんなでワイワイと。昔、引越したんかの問題もありましたよ。タンスをこう入れると、部屋はこれだけの広さで、どのタンスとどのタンスの組み合わせだったら入りますかとかいう問題とか出るんですよ。例えばそういうのは、頭でもそうだけど実際やっぱり生活経験とかもないんですよ、なんか入った方がいいがドアが開かないとかですよ。そういうことになるわけですよ。そこまで考えなきゃいけないんで、そこ上手く何かICTで基礎をしっかり揃えてみんなでワイワイ協議する時間っていうのを取ってあげるといいんじゃないかなと思うんですけどね。都会はこういうの塾でガンガンやりますよね、都市部はそのための問題解かせるんですよ。

【黒木委員】

学校は基本的にその基礎をしっかり押さえ込むっていうところが基本的なところで、それプラスアルファで自分のやりたい気持ちというかそういうところを出されたものを自分で頑張ってるっていうところ。

【都甲教育長】

文章、国語があったじゃないですか。あれは私国語の教員なんですけど、私が教員でやった 20 年 30 年前からやっぱりああいう書くってのは飛ばす子がたくさんあったんですよ。ワークブックとかすると、記号は○するけど、書くのは最初からもう関わり合わんと。だから今回タブレットが導入されて、書けない子が打てる、そっちはいいって言うてる先生達もいる。書くのはなかなか難しいけど、あれを打つことで大分出てくる。

【黒木委員】

発表の時でもそうですもんね。その手を挙げては言えないけど、タブレットで自分の書きなさいって言って、それがバンって出た時には綺麗にみんな自分の意見が出てたりするから。

【佐藤委員】

みんながメールでばっと送ったやつがホワイトボードっていうかモニターに出て、こんな意見もあるねっていうのは、本当これだったら単元の中にもそういう時間あるんですよ。ちゃんとそういう時間組んであるんだけど、これもやっぱりいろんな行事こなしながらですよ、そこに時間確保するっていうのはやっぱりなかなか難しいんですよってね。

【都甲教育長】

指導計画があって、最後の何時間はああいうのもあるんですけど、なかなかそこまですでいかないと。

【黒木委員】

なんかそれが本当に学校と塾の違いだなっていうのを感じます。なんかもう、学力上げるとなったら本当にこういうことをガンガン学校でもやらないといけないけど、だけど学校には学校の運営っていうのがあるからそこまでなかなか。だからそこは、家庭学習だったりで自分の学習意欲を高めて、もっとやりたいなで進めるっていう意識、子どもの意識が上がると、こんなのが出てくるからこういう問題集をちょっとやっておこうかみたいな気持ちが子どもに芽生えるといいんでしょうけど、学校でこれをするっていうとやっぱりなかなか難しい。

【都甲教育長】

こればかりじゃないんですけど、この点数を上げるためにはこういう問題をやらせないといかんだらうって話もあったけど、それと違うから、やっぱりね。

【佐藤委員】

事前に練習して問題になった学校もありましたよね。

【都甲教育長】

やればいいって話もないんで、やっぱ同じような形でねやるってことですかね。

【上村主事】

こういう問題が解ける子を育てたいんじゃないでなくて、こういう問題を解く力を持った子をとということで、この前段なんです。塾は多分これ解けば良いって考えなので、もう似たような問題どんどんさせて慣れて、いざ社会に出た時にそれが使えるかっていうとちょっとそこは使える子も使えない子もいるって実態ですよ。学校としてはそれではいけないので、こういう問題と力をそのベースの部分をしっかり育てていくっていうようなところが大事なかなと思います。

【別府委員】

一つ前の段階で、まず文章読解力がもう国語だけでなく算数にしても理科にしても、まず読解力がないと全部読めないんだな感じて、でもさっきお話聞いているとその読書のポイントが高いとか読解力は一応ついてるっていうスピードだけの問題というような形なんですか。

【上村主事】

読書は好きだけど、じゃあオールジャンルすべてを網羅して好きかといわれたら、おそらく子ども達物語とかああいう作品系っていうものが好きだと思うんですけど、それはそれでいいと思うんですけど、それを広げていくような工夫、例えばいつも小説しか読まない子がたまには科学物を読んでみるとか、SF小説しか読まないけどたまには恋愛小説を読んでみるとか、なんかこうジャンルを変えてみるとかね。先生方の声かけというの必要なと。私指導主事としてよく言うのは、並行学習してくださいと。力をつけさせてどこかやるってのは別ですし、例えば、あの文章読むだけが読解力じゃなくて、先程出てきたこういう英語のこの辺はですね、もうこういうところから情報抜き出していく力も読解力ってところをやっぱり今から求められるのかなと。また、先生方にも追究して、私達もですね、追究していかないといけないかな。

【佐藤委員】

これに関しては本当汐見先生がよく言われてるのが、体験がない言語は使えないと。AIがですよ、膨大な情報を取り込んでいけば、チャットGPTみたいにですることができるようになるんですけど、人間は無理らしいですね。だからどれだけ幼児期に実際の体験もという。画面でりんごの写真を見てりんごって、それはこれ赤い色がりん

ごなのか形がりんごなのか味がりんごなのか、幼児にはわからないんですよ。ただこれを体験して、こうツルツルしながら、親や保育者と話して、これりんごよって甘いねとか赤いでしょうとかいう会話をたくさんすることで本当の国語力がつく。そこが今は欠けてると思います。今日うち誕生会やったんですけど、質問が来るんですよ。誕生者に対して好きな、何て言うかな、ポケモンは何ですかとかあんなのはわかるんですよ。何とかかんとかって、何かゲームのキャラクターの名前とか、ゲームの名前で、それで、こんな好きですって言ってまたゲームの中の単語で答えるわけですよ。さっぱりわからない。でも、そこに短い言葉で終わってしまうんですよ。今「キモ」とか何かそういうのでSNSで終わってしまうじゃないですか。もうゲームの中の言葉もものすごい勢いで進んでるんで、もうそんな短い言葉がバーッと出てくるんですよ。そんなの聞いて育ってる子って、もう言葉は実に貧困で、もうすべてのことを「キモ」とか「うざ」とかもそれで済ませちゃうわけですよ。そういう言語環境で育った子達は、まあこんなのは絶対できないですね。だから、早寝早起き朝ごはんちゃんと寝てるのは出来てるんだけど、メディアコントロールが出来ているのかなあというのはすごく心配。

【都甲教育長】

だから、精一杯そういう意見文とか、自分の考えていることのお手本になるものを読むとか大事ですよ。よく言われてるのが、天声人語とか黒潮なんかをね読むとか、写すとか、あれで国語力がつくとかこれずっと前から言われていますよね。やっぱりお手本なんであれは入試なんかにも出るんですよ。わかりやすい文章でそれが頭に入っていけば出てくれない。やっぱりおっしゃるように普段からそんな単語ばかりやったら何も出てくるんですよ。

【佐藤委員】

高校生のSNSとかですよ。あれは誤解も生じるだろうと、もう本当短い言葉で、あれで本当の気持ちが伝わるはずもなく、自分の気持ちが整理できるはずもなく。

【都甲教育長】

やっぱりそれで人間関係がまたゴタゴタしますよね。

【佐藤委員】

結論を急ぐけど、早く既読がついて返信をしなければならない、これも早さが求められるんですけど、でも、実はさっきのほら高校生の話じゃないけどですよ、もう何日も何日も考えて結論が出ないけど、何だろうこれはって考え続ける力ってのはすごい大事だと思うんですよ。そうじゃないと本質にはたどり着かないと思うんですよ。

【黒木委員】

初めからそこに学ぶ気持ちがあって、そこ１個確立してもっと次を知りたくなる気持ちになるっていうのは、やっぱり子ども見てちっちゃい子見れば見るほどそれが大事だになっていうのはあります。

【佐藤委員】

やっぱなんかあんまり速さ求めちゃうと深みがなくなるというか、本質にたどり着かないなってのはありますね。でも、これじゃ速さ求められないですね。

【上村主事】

ここでいう速さはワンサイクルすぽんと結論がでるっていうものではなくて、やっぱり繰り返し繰り返しその思考することの速さなんです。

【黒木委員】

やっぱりこれだけの長文の中から何が大事かをバーツと読んだ中からポイントを抜き取る力と、そこをちゃんと正確に処理してちゃんと自分の言葉で出せる力っていうのが必要な。もうワーッとやる中で自分が必要なものだけをきちんと読み取って、誤解なく正確に落とし込めないと違う結果が出てしまうなんてことが起こりうるんで、これからの社会にはこういう力が必要なのかなっていうのは、だからもう読書をしてこの物語面白いねじゃなくて、もうバーツと読んで、こんな話だったよっていうのを、パッと感想が言えるっていう力もそんな、速読ですかね。

【別府委員】

これだけ試験になると、小学校の先生が特にちょっと大変なのかなと思ってて、この先あれなんですかね、一人の先生がその全部教える形にいくのか、それとも、専門、数学、算数はこの先生とか、国語、理科はこの先生みたいな、専門的な先生を入れていくような形に持っていくような形になってくるんですか。

【上村主事】

今、国の施策として、小学校の一部教科担任制っていうことで加配ついたりしだしてるので、中学校の繋ぎとっていうところで、全教科、中学校には全教科担任の先生、専門の教科担任制っていう形ではないけれども、この部分部分で徐々にそういう専門的に追究していきましようという動きに向かってます。

【都甲教育長】

学習指導要領ってあるわけじゃないですか。あれはこう改定されてどんどん変わってきたじゃないですか。それが教科書にも反映されて、こういうテストにも反映さ

れている。だから、授業をしっかりやってそれをしっかり子ども達が自分のものにすれば、これはもうわかる問題なんです。だから何も数字、この学力学習調査を意識して授業なんかしてないんですよ。普段の授業の中でそれがしっかりできていれば大丈夫。だから、この点数の高い秋田や福井とかは、昔から少人数であるとか帰ってからもしっかり家庭学習するとかしっかりと定着はできてる。そういうこと言われてますね。今もだから大きく順位が変動しないし、あと、やっぱり低いところは低いんですよ。なかなか難しいですね。

【八木委員】

高校受験とかにもこういう問題出るんですか。これはもう、ただ学力問題としてこういうのが出るけれども、高校受験とか大学受験とかになるともう本当に暗記式になるんでしょうかね。

【都甲教育長】

でもやっぱりこれをね幾らか反映して、やっぱりね思考するようなね。

【黒木委員】

大学受験はもう多分こっち寄りだと思います。自分の書いて記憶よりも、自分の意見がちゃんと出せるかっていうところが重きがあると思います。

【上村主事】

そうなんです。英語入試とかで、その面接とかで、自分の特技をしっかり主張できたりとかっていうところに重きを置き出してる。

【八木委員】

繋がっているんですね。

【佐藤委員】

公平性が難しいんですよ。だから、その回答がいいかっていうのは非常に採点する側が難しくなる。

【都甲教育長】

そうですね。マークシートじゃないですからね。

【佐藤委員】

だから大学も、なかなか厳しいところなんだろうね。

【黒木委員】

幼少期ですね、自己表現ができてどれだけ体験だか柔軟に考えられるかっていうところが、こういう応用問題を得意にするか不得意にするかっていうところになるのかなって言うのは。

【佐藤委員】

運動会もいろいろ意見を出してもらおう。応援の形がですよ、全員同じ応援じゃなくて、何かその僕はこっちの方だっていうのが、いくつかのパターンが出てくるとかですよ、そういう練習の過程を見てないので何ともわからないんですけど、授業だけでなく行事の取り組みの中でも、子ども達が主体的に自分なりに意見を言って多様な考えでああでもないこうでもないってところで議論するところに、本当に国語力っていうかですよ。この前の細田中の最初しか見てないんですけど、なんかみんな小テストされてますよね。○か×かみたいなやつなんですよ。たまたまと思うんですけど、あんなのそれこそね、もう今から知らなくてもですよ、その、コーヒー豆の世界一の生産国はどこかとかそんなの覚えるのは意味ないわけですよ。毎年変わるわけですし、そんなのはネットですぐわかるわけだから。それよりは何で今イスラエルの問題になっているのかとかですよ、じっくり一單元ぐらい使って考えるとかですね、そういうのをしてもらいたいなとかね。

【都甲教育長】

あれが授業になると、何でそのね、カカオの生産はこの国が一番多いんだろうかっていうね、そういう勉強してるんですけどね。

【佐藤委員】

うまくICT使って個別でやって、空いた時間で議論とかでこの国はコーヒー豆がたくさん取れるようになってるんだろうというあたりをみんなで議論するとかですよ、そういう授業やってもらいたいんですが。

【都甲教育長】

昨日のテストは、そういうのをすべてやって復習というふうにとらえてですね。

【佐藤委員】

何とか大会って書いてありますよね。何とか大会を頑張ろうとかですね、まとめの段階なんですよ。

【都甲教育長】

また、機会がありましたら色々聞いてください。

1 1 議事について

議事 1 他市町村教育委員会との意見交換について

(蛸原主査)	他市町村教育委員会との意見交換について説明。
(都甲教育長)	HPなんかでご覧になって、何か取り組み載ってますんでそれでも見ていただいてもいいですし、去年の流れみたいな形で出かけていって、ちょっとその場のものを見てご飯食べて意見交換会というのがいいのかなと思うんですけど、せっくなのでまたよろしくお願いします。

議事 2 ふれあいコミュニケーション

(民生委員児童委員との意見交換) について

(蛸原主査)	ふれあいコミュニケーション（民生委員児童委員との意見交換について説明。
(都甲教育長)	民生委員児童委員さんが色々説明されて、活動とか皆さんどんどん質問してもらってですね、実態とかお互い守秘義務がありますので、しっかり話を聞いていただいたらいいのかなと思ってですね、よろしくお願いします。

1 2 その他

(1) 11 月行事予定について

(2) 日南市教育支援センター参観及び相談員との意見交換会

① 日時 令和5年11月24日（金）午前10時30分から

② 場所 日南市教育支援センター

(3) ふれあいコミュニケーション（民生委員児童委員との意見交換）

① 日時 令和5年11月24日（金）午後1時30分から

② 場所 日南市役所・別館2階会議室7

(4) 第9回 教育委員会会議（定例）

① 日時 令和5年11月24日（金）午後3時から

② 場所 日南市役所・別館2階会議室7

(4) その他

【佐藤委員】

11月10日に、幼保小のなんか接続研究があると案内が来たんですけど、一人と、枠がなんですよ。だからうち年長クラスの担任が行くと、私が行けないって

ということなんですけど、もう黙ってますから何かこう、教育委員とかの枠で参加できないかなと思って。

【都甲教育長】

あれは県から ZOOM で案内が一つ来て、もう一つは対面だったと思うんですよね。だからちょっと相談させてもらいます。

【藤岡担当監】

こども課も入ると思うんですけど、また連絡します。

1 3 閉会